



白洲次郎のような生き方したいもんです

白洲次郎ってかっこええすなあ。

だいぶ前に、録画しとったテレビ番組があつて、それ見て、つくづく思いました。

あんな生き方したいもんです。第二次世界大戦後、吉田茂総理大臣のブレーンになって進駐軍と交渉したり、通産省（現、経済産業省）や東北電力の立ち上げにかかわる、という大役を果たしています。

世のため人のために尽くして、そして、さっと身を引く……。すばらしいですよん。

戦後の連合国との交渉も「我々は戦争に負けたのであつて、奴隷になつたわけでない」と、意気軒昂に行なつたそうです。その例としてよく引かれる話に、次郎が、当時の連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）の総司令官マッカーサー元帥に、昭和天皇の贈り物を持参したとき、ぞんざいな態度をとつたマッカーサーを、無礼だと怒鳴りつけたことがあります。次郎はGHQに「従順ならざる唯一の日本人」と記されていたそうです。

えらいですねえ。こんな白洲次郎の生き方を知ったら、最近、ふと考えることがあります。

僕の人生なんか足らんなあと……。やつたことには悔いは

ないんですけどね。

今も、なんかかんや忙しいけど、それで自分を見失つたらあかんと思います。

「今日は謙虚ですなあ。青木さんは人工衛星打ち上げて、無人飛行機つくつて、医療にも手を出して、他の人にはできませんことをやってきた人生ですよやないですか。

けつこう人のためになつたと思いますし、極端に言えば、もうゴルフや趣味三昧の人生送つて、それはそれでええのと違いますか」

めずらしくほめてくれたのか、それとも、早よ隠退しろ、と言いたいのか、東京のおっちゃん。

人生を振り返るような思いを抱いたのは、万博が、また大阪で開かれるのが決まつたからです。

**さまざまなができたのは
優秀な方とご縁があつたからです**

この前の一九七〇年の大阪万博のときは、僕は二五才でした。まだ若者で、仕事に恋に（笑い）楽しかった時代です。あのとき万博を仕切つたのは通産省の官僚だった堺屋太一さんです。この前、お亡くなりになつたのは残念でしたなあ。



●(株)アオキ取締役会長
青木 豊彦 (あおき・とよひこ)

1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし、人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。現在は(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。



堺屋さんは、イベントプロデューサーで有名ですが、小説を書いたり、第一次ベビーブーム世代を「団塊の世代」と名付けたら、請われて大臣をやったり、多才な方でした。
一九七〇年の万博から、その後一九七三年の中東での戦争がきっかけで起こった石油ショックで、日本の高度成長の終りを告げました。

中小企業にとつては、上つてたジェットコースターが、いっぺんに急降下したようなもんです。
そして、二度目の大阪万博は二〇二五年で、僕は八〇才になります。

今まで、いろいろな方とお知り合いになりました。人工衛星打ち上げたり、さまざまなことをやってきましたが、それができたのは、優秀な方とご縁があったからです。

そんな方と触れ合せて、世の中すごい人がようけいてる、と感動せざるを得ませんでした。

そして、白洲次郎みたいに、国家や国民のことまでは、よく考えんけど、大阪を、中小企業をなんとかしたい、ということ僕はずっと考えてきました。

**お世話になったご恩を
世の中にお返ししようと思います**

今後は、取り持つ縁でお世話になったご恩を、世の中にお返ししようと思います。

今までは自分でしゃかりきにやってきましたが、これから人がやることをお手伝いしたい、人をつくろうと考えています。

ます。

志をもつ人のお役に立とうと思います。

イギリスのご出身でデービット・アトキンソンさんという社長さんがいます。

小西美術工藝という文化財の補修などを行なっている会社を再建した方です。彼は、文化財の修復に使う漆でも、本物志向で昔から使われている日本の漆にこだわり、安い中国産の漆を使わないのです。

そうそう、白洲次郎のよく言うプリンシプル、原則いうんですかなあ、それに忠実なんです。日本の文化財の修復は、日本の素材をもつて行なう、という当たり前のことに。

この人が、日本は中小企業が多すぎる。その結果、生産性が低くなっていると警鐘を鳴らしています。

一部あたると思います。日本人はライバルがおって伸びるんでは、とも考えます。

日本人は、大きな組織の運用はうまくないと思います。

中小企業が競って、いい製品をつくる。場合によれば「まいど1号」のように、いろんな企業が集まってそれぞれの得意分野を提供する。そして、それに見合う給料や福祉を保障する。

どうですか、そのためにまずは人づくり、社長さんづくりと思います。



●「プリンシプルのない日本」(新潮文庫)